

生物研究

第 XVII 卷 第 3・4 号

1973

(終卷記念号)

THE LIFE STUDY

Vol. XVII, Nos. 3・4

(Final Issue)

December 25, 1973

FUKUI, JAPAN

目 次

報 文

台湾産アナバチ科の研究 (XV) (英文)	常 木 勝 次	… (39)
マメギングチバチの習性	田 本 正	… (50)
樹脂を使用するキュビギングチバチの習性	南 部 敏 明	… (55)
トゲアシギングチバチについての観察	山 田 晴 昭	… (61)
カヤの髓に造られたヒメコシボソバチ類の巢 (英文)	常 木 勝 次	… (63)
トモンハナバチの巢の1例	常 木 田 泰 生	… (74)
ニッポンジガバチモドキの巢	田 本 正	… (77)
フタモンアシナガバチの多産巣例の発見 (英文)	山 根 正 氣	… (79)
スズメバチ属ハチ類のコロニー内の分業。Ⅲ, 外役活動	松 浦 誠	… (81)
奄美群島の蜂類	室 田 忠 男	… (100)
常木教授採集朝鮮産広腰垂目の蜂類 (英文)	富 樫 次	… (103)
アナバチ科2種の学名変更 (英文)	常 木 勝 次	… (113)
1972年台湾で採集した蜂類	常 木 田 忠 男	… (115)
山梨県のアナバチ科 (第1報)	須 田 博 久	… (121)
有刺類の行動等について	宮 野 正 雄	… (125)
日野山のソボツチスガリの巢	常 木 勝 次	… (127)
カギバラバチ類の採集	常 木 勝 次	… (128)

採 集 行

山梨県ハチ類採集コース	須 田 博 久	… (131)
-------------------	---------	---------

研 究 手 引

蜂類研究手引 (32)。日本産キマグラハナバチ属	常 木 勝 次	… (135)
--------------------------------	---------	---------

短 報

銀口蜂関係学名変更 (49)。筒巢に寄生したヒメバチ (49)。ウスキギングチ福井県から初記録 (54)。ジガバチモドキ検索表の訂正 (54)。日本産ジガバチモドキへの追加 (54)。キュビギングチ福井県第2の記録。岩手・秋田県で採集したアナバチ科 (76, 南部)。ガロアシギングチとニッコウギングチ (77, 78)。モウソウタマオナガゴバチの習性 (99, 富樫)。マルバツツハナバチの巢 (112)。サッポロジガバチモドキ福井県で発見 (113)。スミスハムシドロバチの巢 (114)。ツマアカツチバチを福井県で採集 (120)。フジジガバチの福井県内新産地 (120)。スキハラギングチについて (126)。オタネギングチについて (130)。エゾマエゲテの学名変更 (134)。トゲアシギングチについて (150)。ジガバチモドキの獲物 (150)。埼玉県のアナバチ科 (150, 南部)。フクシスズバチの巢 (150)。

CONTENTS

K. Tsuneki: Studies on the Formosan Sphecidae (XV)	(39)
T. Tano: Nesting biology of <i>Entomognathus brevis</i> Linden observed in Japan	(50)
T. Nambu: Biology of <i>Crossocerus (Towada) flavitarsus</i> Tsuneki, using resin to close the nest entrance	(55)
H. Yamada: Some observations on nesting habits of <i>Crossocerus denticrus</i> H.-S.	(61)
K. Tsuneki: Nests of some Pemphredonine wasps in the pith of <i>Miscanthus</i>	(63)
Y. Maeta: A nest of <i>Antidium septemspinorum</i> Lep.	(74)
T. Tano: A nest of <i>Trypoxylon nipponicum</i> Tsuneki	(77)
S. Yamane: Discovery of a pleometrotic association in <i>Polistes chinensis antennalis</i> Per.	(79)
M. Matsuura: Intracolony polyethism in <i>Vespa</i> . III. Foraging activities	(81)
T. Murota: Some aculeate Hymenoptera collected in the Amami group of the Ryukyus	(100)
I. Togashi: Tenthredinoidea of Korea collected by Prof. K. Tsuneki in 1941-43	(103)
K. Tsuneki: Taxonomic notes on two species of Sphecidae	(113)
T. Murota: Sphecidae, Mutillidae, Scoliidae and Chrysididae collected in Formosa in 1972	(115)
H. Suda: Sphecidae of Yananashi Pref., Japan	(121)
K. Tsuneki: A nest of <i>Cerceris sobo</i> on Mt. Hino, Fukui	(127)
K. Tsuneki: On Trigonaloidea of Japan	(128)
K. Tsuneki: A guide to the study of the Japanese Hymenoptera (32). The genus <i>Nomada</i> Scopoli	(135)

したあと、腹部、脚および胸部と食いつくし、次の獲物に移るが、成長するにしたがって腹部だけ食べ、胸部を残すものがある。第2室の幼虫は3日目に乾燥死したが、第3室の幼虫がこの室内に移動して、残りの獲物を食べた。

7月5日の午前9時ごろより第4室・第1室の幼虫が繭づくりを始め、午後には第3室でも繭づくりを始めて6日には繭が完成した。7月11日蛹の胸部は黒色化しているが、腹部は乳白色であり、柄状部は透明で腸管がはっきり見える。7月15日胸部について腹部も黒色化し、脚、触角の先端部は乳白色、触角はかなり動かせる。

7月18日第4室、第2室の蜂が羽化する。いずれも雄で第4室の個体は非常に小さい。7月19日第1室より雌が羽化する。

最後に本種の同定確認をして下さいました福井大学生物学教授常木勝次博士に心から感謝いたします。またクモ類の同定をして頂きました追手門学院大学八木沼健夫博士に深く感謝します。

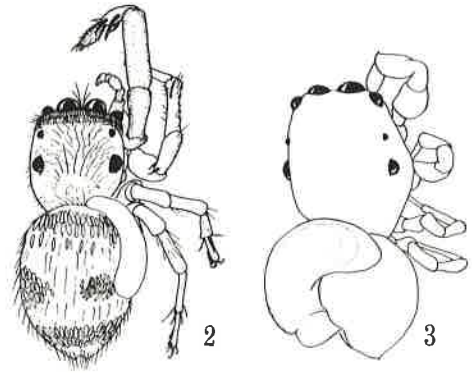


図2. ハチの卵を産付されたウデプトハエトリグモ
図3. クモを吸っているハチの幼虫

参 考 文 献

- 南浦敏明, 1966—67. 日本産ジガバチモドキ類 (*Trypoxylon* spp.) の習性およびその天敵について (I, II), 生物研究 (福井), 10 (合併号): 25—34; 11 (1・2): 6—12.
 ———, 1971. キスケジガバチモドキの習性 生物研究 (福井), 15 (1・2): 1—7.
 ———, 1971. ヒメジガバチモドキの習性 生物研究 (福井), 15 (3・4): 69—74.
 ———, 1972. ナンプジガバチモドキの習性 生物研究 (福井), 16 (1・2): 9—14.
 常木勝次, 1956. 本邦産ジガバチモドキ類の分類並びにその生態に関する諸問題. 生態昆虫, 5 (13): 119—128.
 ———, 1970. Gleaning on the bionomics of the East-Asiatic non-social wasps (Hymenoptera). VI. Some Species of Trypoxyloninae. Etizenia, No.45. : 1—20.

ガロアギングチとニツコウギングチ (♀)

1959に本誌3巻4号に書いたヒメギングチバチの検索表の中で、この両種の♀に関する所 (p.75) が1部誤っているために、熱心な研究者を困惑させているようである。おくればせながら同一誌の中で訂正しておきたい。

検索59の所で「後脚第1付節の長さは後脛節の半分ほどで先端の幅の約5倍」というのはニツコウギングチの項に、また「後脚第1付節の長さは後脛節の半ばより大で先端の幅の約7倍」というのはガロアギングチの項に入るべきもので、この部分が逆になっているのである。この部を赤線で囲み、入れ換え記号を付しておきたい。

なおガロアギングチの種小名が *hydenii* となっているのは誤植で *heydeni* と改められたい。p.70の *heydenii* も *heydeni* と末尾の *i* を1つ除いておきたい。別記したように、亜属 *Coelocrabro* はアムールを除いて全部が *Blepharipus* となり、アムールでは *Neoblepharipus* となる。 (常木)